

班番	タイトル	研究分野	テーマ
L01	“みんな”のトイレのマーク	地域社会	多目的トイレは本来、車椅子利用者だけでなく、内部障がい者、子連れなどの多様な人が利用できる。その一方で、現存している多目的トイレのマークの多くが車椅子のマークである。そのため、視覚的に利用対象者を絞ってしまっている。そこで、車椅子以外の多目的トイレのマークを制作したいと考えた。マークを制作している企業に対してインタビューを行い、その内容を基に独自のマークを制作する。
L02	犯罪者の社会復帰支援策を考える	人権	私達は元受刑者が復帰しやすい社会を目指し、そのために重要な再犯率低下に必要な支援について研究した。令和元年において検挙された者のうち再犯に至る者が約5割に及ぶこと、また再犯者の約7割が無職であることに鑑み、私達は元受刑者の社会復帰には職への定着が不可欠と考えた。今回の研究では元受刑者が抱える就職への課題や現状についてインタビューし、それをふまえて海外の事例を参考にし元受刑者が職に定着しやすい支援策を考えたい。
L03	虐待件数減少への支援	人権	今、児童虐待率が29年連続で増加している。本研究では、特に実母から子供への虐待について、実母の病理的要因に注目する。そして、虐待件数を少しでも減少させるために、現在行われている2つの取り組みを虐待に対しての支援の時期に焦点をあてて比較する。そこから、新たにより実母に寄り添える取組を考察し、提示していく。
L04	プレゼンテーションの話し方	心理	私達はプレゼンテーションの話し方についてメラビアンの法則に基づいた3つの観点から調査した。発声については、腹式呼吸によって発声に余裕を持たせること、視覚については聞き手全員に視線を向けて意識させること、表情については口角をあげ、声をこもらせないことが重要だと分かった。これらから、プレゼンテーションと歌唱の重要視されることに共通点が多いことに気づいたので、歌唱における重要なポイントを活かせると考えた。
L05	分別を促すごみ箱とは ～仕掛学を用いて～	環境	限られた資源を持続可能に利用するためには、ごみを分別し、リサイクルすることが欠かせない。そこで、松村真宏（2016）の仕掛学の観点からごみ箱に「仕掛け」を施し、分別行動を促すことを考えた。ペットボトルを、ボトル、ラベル、キャップに分別して捨ててもらうため、豊田西高校に仕掛け付きごみ箱を設置し、どのような仕掛けがごみの分別行動を誘引するか調べた。
L06	あっ！お土産何買う？～みんなに選ばれるお土産の傾向～	文化	白い恋人、東京バナナ、赤福、八つ橋…。日本各地には、多くのお土産が存在する。しかし、私たちの住む地域のお土産がぱっと思い浮かぶ者はいるのだろうか。いや、いないだろう。そこで私たちは、地域を活性化させるようなお土産を提案するべく、次世代を担う高校生を対象としたアンケートを用いて人気のあるお土産の特徴を調査した。
L07	本当に興味深い民族文化 ～私たちはどれだけ認められる？～	文化	死人の魂を天へ戻すために遺体を鳥に食わせる葬儀、逆さ吊りにされ90mもの高さから振り回される成人式…。日本に住んでいる私たちから見て、常識を超えている！と思える文化は山ほど存在します。しかしそれらの文化の中には受け入れられず、最悪な場合差別を受けるようなものもしばしばあります。そこで私たちはどうして他文化が国内で受け入れられにくいのか、そしてどうしたらより多くの他文化を受け入れられるか研究しました。
L08	お金が集まる箱!! ～仕掛学を用いて～	心理	経済格差や自然災害、感染症など様々な原因により、解決の目途が立たない貧困問題。さらに新型コロナウイルスの流行による経済活動の停滞や雇用問題は貧困層の増加に拍車をかけている。彼らの生活を手助けするために私たちができる活動の一つとして一番身近なものが募金である。私たちは募金による経済的支援が貧困問題解決につながると考え、募金箱の要素に着目し、どのような募金箱がより多くの募金を集められるか調査・研究を行った。
L09	その街、私たちが育てます	環境	私たちは豊田市駅の周りのポイ捨てゴミが多いと感じ、その問題を解決するために他地域で行われているアダプト・プログラムに目を付けました。アダプト・プログラムとは、市民が地域の清掃活動を行い、その活動を行政が支援するものです。本研究では、アダプト・プログラムも考慮して豊田市をよりポイ捨てゴミの少ない街にすることのできる案の提案を目的とし、他地域の活動を基に、調査・研究を行いました。
L10	豊田市の地球温暖化防止政策	環境	今日では急な気温上昇や異常気象が各地で起こり、問題となっている。日本でも地球温暖化対策が講じられている中、環境モデル都市である豊田市の政策は世間にあまり浸透していないと感じられる。そこで、本研究では他の環境モデル都市で行われている政策とアンケートを参考に、今後豊田市で行っていくべき政策を提案することを目的とする。
L11	日本の常任理事国加盟の妥当性と限界	国際	現在、第二次世界大戦における勝敗は、「常任理事国」として形に残り、大きな壁として日本の前に立ちふさがっている。そこで私たちは、「日本が第二次世界大戦で勝利していたら」という仮定条件のもと、「日本は常任理事国に加盟できるのか」について考察することにした。「戦争に勝った」という肩書さえあれば、日本は常任理事国に加盟できるのだろうか。
L12	世界を救うお金を集めるには？	国際・教育	現在、世界では7億人を超える15歳以上の人々が教育を受けられず、読み書きができない。このような状況を改善するために私たちが最も容易にできることは、募金である。しかし、日本の寄付の現状は他国と比べると劣っている。そこでなぜ日本の寄付が少ないのかをさまざまな角度からアメリカと比較し、その理由を考察した。また、どうしたら寄付を増やすことができるかを推測した。
L13	フェイクニュースが与える影響	国際	あなたは「フェイクニュース」に騙されたことがあるだろうか。まず、フェイクニュースとは、マスメディアやSNSなどの媒体において、事実と異なる情報を報道することだ。例えば、「コロナウイルスとは2回接種しても、感染する可能性がある。」という情報を得た時、その真偽を見分けることができるだろうか。どんな情報を信じやすいか。私たちはマスメディアの情報を適切に判断するために、アンケートをとり、このテーマを徹底して研究した。

班番	タイトル	研究分野	テーマ
L14	感染症対策 ～都市封鎖とワクチンの観点から～	国際関係	新型コロナウイルスは、私たちの前に突然現れ大流行を引き起こした、驚異的な感染力を持ったウイルスである。各国はあっという間に広がっていくウイルスの猛威に対抗する術無く、多くの人が感染していった。現在、何度かの波を乗り越え、対策を確立してきている国が増えてきた。そこで、感染者数の多少を調査し、それぞれの国の対策などの特徴について考察を行った。その結果を踏まえ、現在の状況下で有効的な感染対策をまとめた。
L15	新路線で行こう！	地域社会	インターネットを使い、豊田市・みよし市の人口密集地と地域の重要施設を調査し、それらを結ぶように鉄道の路線を引いた。地図の作成にはグーグルマップを使用した。現在、豊田・みよし地区で電車の駅から遠い所に住んでいて交通に困っている人を助けつつ、発展の余地がある地域にも、人を運べるルート取りを行った。また、既存の路線とも競合しないルートを取った。
L16	豊田市の将来を見据えて	地域社会	私たちは街づくりを通して、豊田市の将来を創っていかようと考えています。豊田市は栄えており、住みやすい街だという意見が一般的だと思います。しかし、まだまだ細かいところに目を向けると改善の余地があります。山間部の開発、交通整備などの課題を豊田市をより良くしようという熱い気持ちとアイデアで解決していきます。
L17	授業中の話し合い活動の現状と課題	教育	昨今、教育現場では、主体的、対話的で深い学びの実現に向け、様々な改革がなされている。授業中に問題へのアプローチの仕方や意見を共有するといった話し合い活動が行われているが、円滑に行われていない場面が多々見受けられる。そこで本研究では、アンケート調査を用いて、話し合い活動の現状を把握し、改善策を考えることとした。
L18	教育格差はなぜ？ どうして？	教育	私たちは教育格差に興味を持ち、特に発展途上国と日本での違いにどのようなものがあるのか気になり、その差を埋める方法を見つけたいと思い本研究に至った。ブラジルでは、近年国全体で学力向上がみられるが、低所得層と高所得層の成績の差は縮まっていない。また、超低所得層に教育が行き届いていないという問題がある。これらの問題を踏まえ、三つの観点から解決案を提示する。
L19	文理選択は必要なの？	教育	豊田西高校では、高校1年生の時点で就職先を制限し得る文理選択をしています。きっとみなさんの中にも早いと思った人がいるかと思いますが、しかし、例えば宇宙飛行士は理系だけでなく、文系でも就くことができるようになりました。文理の垣根が低くなっている中で私たちは、文理選択の現状について関心を持ち、日本の文理融合型学校の特徴や世界の動きを調査し、あらゆる角度で比較・考察をして文理選択の必要性を考えました。
L20	英語の長文、読めるようになりたくないですか？！	教育	現在、大学入学共通テストの英語科目において大部分を長文問題が占めています。そのことから、長文問題の正答率が受験の可否に大きく関わってきます。そこで、長文読解の何かヒントを得るために、男女72人に長文を読んで解いてもらい、分からない単語に丸を付けてもらうことで、長文問題の正答率と単語の理解度の関係を調べました。この研究を通して、英語の長文を読むのに、苦労している人、もっと英語の読解力をつけたい人の力に少しでもなればと思っています。
L21	不登校の過去と未来	教育	不登校と聞いて連想されるイメージには、どのようなものも多く、何故その印象が与えられているのだろうか。私達は新聞の見出しや本文の内容から、世間が抱く不登校への印象を紐解くとともに、現在行われている不登校支援を調査した。「学校へ行く」以外の選択肢を提示し、これからの日本に合った支援方法を模索していく。
L22	高校生の教育におけるICT機器の有効性について	教育	現代の教育ではICT教育が普及している。本研究では実際に生徒にアンケートを行いICT教育についてどのように考えているか、またどのように利用したいかを調査し、これらの結果をもとに現代の生徒に最も適している教育方法や方針、またICT教育によって生徒の関心・意欲、教育現場の負担がどのように変化しているかを考察した
L23	看護師の人手不足の原因と解決策とは	医療・看護	新型コロナウイルスの影響で、日本の医療が逼迫している中、看護師不足が明らかになったため、日本の医療環境を調査した。また、西高生を対象に看護師に対するイメージについてのアンケートを実施し、問題点を見つけた。ほかに医療先進国と日本の医療体制や看護師の待遇などに関して比較をし、看護師不足の原因と解決策を探っていく。
L24	骨髄バンク知ってる？	看護	池江璃花子選手が患ったことで話題となった白血病などの病気の人に骨髄を提供する骨髄バンクは、登録者が少ないため、アンケートを行い、西高生の認知度を調べた。そして骨髄バンクについてのパンフレットを生徒に配布した。そこで骨髄バンクについて知ってもらい興味・関心を高めることで意識改革を行い、将来登録を促すことを目的としている。
L25	豊田市のバリアフリー化を進めるためには？	福祉	バリアフリーは若者にとって「あまり身近ではないもの」と認識されがちである。しかしバリアフリーは多くの方が暮らしやすいまちにするためには必要不可欠なものである。そこで私たちは豊田市とバリアフリーが充実しているまちとを比較するとともに、より多くの人に「バリアフリー」の意識を高めてもらうために、認知度の低いバリアフリー設備に関して調査・研究した。本研究を通して豊田市のバリアフリー化の発展に貢献する。
L26	NO VOTE NO LIFE	政治	今日の日本では、若者の投票率が低下し高齢者が有権者の多数派となり、彼らの政治への影響力が強くなりつつある。これがいわゆるシルバー民主主義である。我々は高齢者一強による政治の硬直を打破するためには、若者の投票率を上げる必要があると考えた。そこで、世界各国の教育支出と投票率を比較し、日本の若者の投票率を上げるにはどうしたらよいか教育の観点に注目して調査した。

班番	タイトル	研究分野	テーマ
L27	Let's reduce,食品ロス!!	農業・食糧	私たちは、日本での食品ロスの認知度やどのような食材が廃棄されているのか、またどんな取り組みをしているのか調査しました。アンケート調査の結果によると、食品ロスについて内容・取り組みについて知っている、又は内容を知っていると答えた西高生は全体の約八割であり予想以上に食品ロスへの関心度が高いと分かりました。そこで、私たちが身近なところから取り組めるような解決策を考えました。
L28	有休取ろうぜ！	労働	今日、日本は有休取得率が世界でトップレベルに低い。他国と比べなぜ低いのかを、有休の制度と有休を取る側の労働者の2つに注目して調べた。制度についてはインターネットや書籍を用いて問題点を考察した。労働者については身近な労働者である豊田西高校の教員へのインタビューを実施し、有休に対する考え方を聞いた。その結果、日本の有休に関する問題が浮き彫りになった。
L29	まだ使ってるの？現金	経済	電子決済は現金払いよりも効率的であり、利便性がある。しかし、日本の電子マネーの普及率は他国に比べて低い。そこで私たちは、高校生の電子マネー普及率を向上させることを目指した。アンケートを実施し、高校生の購買行動の傾向を調べた。さらに私達自身が電子マネーを利用して発見した長所と短所をまとめた。これらの調査結果を考慮したうえで高校生に最適な電子マネーの特徴はスマホ決済であるという結論に至った。
L30	IoT化による持続可能な農業	農業	1980年代以降、日本の農家の人口は減少傾向にあり、その背景には重労働や低収入といった原因がある。この問題を解決するために現代農業で活用され始めているIoTに着目し、豊田・三好地区で行われているスマート農業について、豊田市役所産業部農政企画課とみよし施設園芸支援センターの職員の方々にインタビューを行い、現時点のIoT製品の活用方法などをまとめ、これからのIoT製品の活用方法を提案する。
L31	経済格差による教育格差と解決策の提案	教育	経済成長を経て、日本は世界でも有数の先進国となった。しかしその中で、社会には様々な格差が生まれた。本研究では、私たち学生に身近な「教育」に焦点をあて、各家庭の経済格差が子供にあたえる影響について調査し、教育格差に対する解決策を提案する。来年度は世界の国々で行われている教育に対する活動についても調査し、より効果的のある解決策を提案していく。
L32	GI！MU！KA！	経済	2021年4月1日から価格の総額表示が義務づけられた。それを受けて、消費者と販売店にどのような影響があったのかについて研究する。本校の生徒と教員にアンケートをとったり、実際に大手スーパーマーケットにインタビューを行ったりし、得られたデータを元に考えられることや分かったことを明確にし、生活への役立て方を伝える。
L33	特許を取りたい！	特許	特許制度という名は知られているが、その実態はあまり認知されていない。また、特許取得にかかる費用が高いことなど、まだまだ改善の余地はある。したがって、この制度について考察を重ねればさらに良い制度ができるのではないだろうかと考えた。そこで、実際に班員の発明品で特許を申請することを通じてこの制度の問題点や改善すべき点を明らかにしていく。
L34	豊田市をよりよい町に ～ディズニーから学ぶ～	地域社会	豊田市が行った市民意識調査によると、市の住みやすさに満足している市民はおよそ40%である。そこで私たちは豊田市の満足度をより高くしようと考えました。また、世界中で不動の人気を誇っているディズニーの経営手法や取り組みを取り入れることで魅力的な町づくりができるのではないかと考えました。豊田市とディズニーの取り組みを融合し、豊田市を住みやすい町にするためのアイデアを提案します。
L35	クアドラティックボーディングってなあに？	政治	台湾で実際に用いられたクアドラティックボーディングという投票方法を考察していく。今回は、一人一票の多数決を用いて、「好きな食べ物は何か」などといった計三つのテーマで投票結果の違いを比較する。最終的に現代の日本の選挙の問題点について考察するとともに、より民意を反映しやすく使用しやすい投票方法を模索する。
L36	提案します！最適な暗記方法	脳科学	皆さんは、普段何気なく識別しているトイレの記号の色が、もし逆の色になっていたら、違和感を覚えませんか。このように、ある事象のイメージの色と実際に示されている色が異なる場合、理解に時間がかかる現象をストループ効果と言います。私達は、この現象を利用することで、より効率の良い暗記方法を生み出せるのではないかと考えました。
L37	素晴らしい学習環境を目指して	脳科学	学習環境における集中力の差について調べます。そのために、どのようなジャンルの音楽が一番集中できるか、曲のテンポによって集中力は変化するのか、机の上のスマートフォンの有無によって集中力に差はあるのか。この3つの実験と事前に文型4クラスに行ったアンケートから最適な学習環境を考え、見つけます。
L38	声援は選手のパフォーマンス向上につながるの？	心理	コロナウイルス感染拡大防止のため様々なスポーツ大会で声を出さずに応援することが行われた。このような措置に対して「観客の声が聞けなくて悲しい」という選手の意見があった。一方で「緊張せずにできた」という意見もあった。そこで私たちは声援が選手に与える効果について研究をし、選手のパフォーマンス向上と声援の影響について調べた。
L39	マスクの色による印象の違い	心理	新型コロナウイルスによってマスクの着用が強いられる今の時代、第一印象を決めるうえで大きな影響を与えているのは「マスク」なのではないかと私たちは考えました。顔の大部分を占めているマスク。「マスクが黒色だから怖い印象を持った。」という経験はありませんか？私たちはそのような経験からマスクの色による印象の違いについてアンケートを取り、調査を行いました。